

掛川城の修復

天守閣 開門30周年を迎え、天守閣・冠木門・搦手門・土塀・漆喰塀などを修復

修復設計・監理

株式会社 鈴木庄一設計一級建築士事務所

まずは掛川城の歴史を・・・

明応三年(1494)頃、掛川周辺を収めていた原氏が今川氏に滅ぼされたことにより、その後、今川氏親の命により重臣筆頭の朝比奈泰熙(やすひろ)が最初に掛川城を築いたが、その場所は現在ある掛川城の所ではなく、東に500mほど行った所に中央より段状に東・西・北曲輪群などを配する中世城郭があった。ところが、完成してまもなく氏親は泰熙に掛川城の拡大を命じ、その後築城されたのが現在の位置にある掛川城である。

その後時代は流れ小田原の陣(1590)によって、豊臣秀吉の家臣として山内一豊が掛川城に移ってきた。一豊は即城郭の整備に取り掛かり天守を築城し、慶長元年(1596)に完成させている。近世城郭からは曲輪を丸というようになり、この時代の掛川城は本丸・二の丸・三の丸・中の丸・松尾曲輪などを配する大規模な近世城郭を築城した。なお、一豊の掛川城大改変による構図は、後に城絵図として多少残されているが、朝比奈氏時代の掛川城の構図はあまりわかっていない。ちなみに天守と天守閣の使い分けとして、中世・近世時代に築城され現存するものを天守とし、現代において復元されたものを天守閣として区別している。

木造復元された掛川城天守閣の構造形式

天守閣

主要構造	木造
階数	三重(付櫓一重)内部四階
建築面積	六三・二三坪(209.00㎡)
延床面積	九二・二六坪(304.96㎡)
棟高	五三・四尺(16.18m)石垣上端より
屋根	本瓦葺き
外壁	大壁漆喰塗籠
基礎	RC基礎の上に礎石据付
内部	各階縦嵌板張り



竣工 天守閣 南東面全景

天守閣の修復工事は令和4年に行われ、主な修理内容は外壁劣化部撤去復旧、廻縁・高欄劣化部撤去復旧、屋根瓦補修、避雷針設備補修などを行った。幸いにも鯨本体に劣化の症状はなく、それに付随する避雷針設備と瓦との取合部の修理で済み事無きを得た。とは言え、足場組一つとっても、邪魔となる植栽の伐採から始まり、地均し後に構台を組み、やっと枠組足場を組むことができた。同じく仮設工事として、ラフテレーンクレーン50~80tが本丸に搬入できるのか？また、このサイズで本工事が補えるのか？設計時から入念に確認し、狭い搬入道路の路面補強や植栽の伐採により、これらの問題も一つずつ解決していった。余談だが、この特殊な足場工事は他に例をみないためとても苦労したが、何よりも工事中に台風が東海地方を通過した時には、心配で夜も眠ることが出来なかった。



竣工 上重 廻縁・高欄 南東面

天守閣の修復は上重、中重、下重、付櫓の順に上から下へ、そして日射、外気温、風向、湿度より東西南北面を考慮して効率よく施工を行った。